

けやきだより

社会福祉法人みらい



今月号の写真

『もしもの時の備えを進めています』

自然災害はいつ起こるか分かりません。特にここ数年、日本各地で大きな地震が頻発しています。法人では南海トラフ巨大地震に対するできる限りの準備を進めてきています。もちろん地震だけに対する準備ではないのですが、一番被害が大きくなると予想されるものに対しての準備なら、他の災害時にも活用できるのではないかと考えています。

今年度は、各拠点に災害時に活用できる発電機や防災用ラジオを準備し、携帯トイレを備蓄してきました。また、非常食や飲料水については、利用者も職員も各自で3日分を用意してもらっています。まだまだ足りないものがあると思いますし、準備した物が適切に使用できるようにすることも必要です。引き続き準備を怠ることのないよう進めていきます。

第19回けやき祭りを開催しました。

2025年11月15日（土）、昭和小学校体育館をお借りして「第19回けやき祭り」を開催しました。当日は天候にも恵まれ、地域の皆様をはじめとした多くの方にご来場いただきました。開場前から活気にあふれており、職員一同、改めて地域に支えられていることを実感しました。



今年のけやき祭りでは、来場者の皆様に、より快適で安全にお過ごしいただくこと、そして「今年はちょっと違うな」と感じていただけるよう、いくつか新しい試みを行いました。飲食模擬店を体育館の外に配置し、屋外での実施としました。混雑緩和や感染対策のための試みでしたが、いかがでしたでしょうか。予想以上の人気のため、長蛇の列となってしまったことをお詫び申し上げます。



また、飲食模擬店を外に設置したことに伴い、履き替えの手間をなくすよう館内も土足でご来場いただけるように変更いたしました。スムーズな入退場が可能となり、小さなお子さま連れのご家庭にも、負担なく会場内を回っていただけたのではないのでしょうか。

新企画として、いわくら観光振興会様にご協力いただき、ミニSLの運行を実施いたしました。線路の上を走るミニSLに、子どもたちも目を輝かせながら乗車を楽しんでいた様子です。何度も並び直して乗車する姿も見られ、なかなか体験できないことで嬉しいといった声をいただきました。



さらに今年度は、多治見南消防署のご協力のもと、AED体験講習を実施しました。実際のAED機器を使用し、消防士の方から丁寧な説明を受けながら体験することで、緊急時の対応について具体的に学んでいただけたことと思います。



ステージ発表では、今年も、法人みらいの利用者で結成した「みらいの音楽隊」、みらいから就職した方の音楽サークル「ブレーメン隊」による演奏や歌の披露が行われました。日頃の練習の成果を発揮し、一生懸命に表現する姿に、会場からは温かい拍手と声援が送られました。



会場内には、法人みらいの利用者が関わって製造した木工製品やクッキーなど自主製品の販売コーナーを設けました。今年は、ほっとスマイルの利用者が作成したタイルタペストリーも販売しました。手にとっていただき、直接感想を伝えてくださる場面も見られました。ゲームブースでは、恒例の射的ゲームやプラ板に加え、「ぴったり置きましょゲーム」、「空気砲ゲーム」を実施しました。また外に、木工の遊具で遊ぶことのできるスペースを設置いたしました。特に小学生以下のお子様にご一杯楽しんでいただいた様子が、終始にぎやかな雰囲気に包まれていました。



今回も、多くの皆様のご理解とご協力のもと、無事に開催することができました。ご来場いただいた皆様をはじめ、当日の運営に携わってくださったボランティアの皆様、関係機関の皆様に、心より感謝申し上げます。



法人みらいは、けやき祭りのようなイベントを通じて、地域の皆様とのつながりを大切にしながら、「どんな障がいのある人も、地域の中で生活する」という理念のもと、誰もが安心して暮らすことができる地域づくりを続けて参ります。これからもどうぞよろしくお願いたします。

事務局 さいとう



事業所紹介 第2 けやき

第2 けやきの紹介をさせていただきます。第2 けやきは就労継続支援B型サービスを提供している事業所です。行っている作業は木工製品の製造と下請け作業です。

木工班では、季節の置物を中心に木工製品を制作・販売しています。商品の特徴は、優しいデザインと木本来の素材感を大切にしている点です。



利用者の皆さんには、木材の切り出し・やすり掛け・袋詰めなど、ほとんどの工程に取り組んでもらっています。やすり掛けでは、仕上げの程度を理解している方もいれば、まだ感覚をつかみきれていない方もいます。そのため、自分の好きなデザインの木工品を選び、実際にやすり掛けを行い、見本と比べながら仕上げ具合を学ぶ取り組みも行っています。



12月には、丸紅基金の助成金によりレーザー加工機を導入しました。これにより、印字や細かな切断などの加工が可能となりました。今後は、企業の社名を入れたノベルティや、市町村の刻印を施した置物などの制作も可能になります。



下請け作業は主に二つの仕事を行っています。一つはPPバンドの組付け作業で、物流品を固定するために使うビニールの紐を一定の長さに切って、片方の端にプラスチック製の治具を結び付ける作業です。もう一つはヨーグルトの種菌スティックの袋詰めです。これは地元の企業から頂いている仕事で、スティックの向きをそろえて10本ずつ袋詰めする作業になります。いずれの下請け作業もそれなりに手先の器用さが求められますが、工程を分けるなどして、それぞれの利用者さんが作業に従事しています。

第2 けやき あんどう





利用者紹介

みらいの輝人

～キラビト～

けやき可見

大高 那央也さん



Q、けやき可見ではどんな作業をしていますか？

A、調理班でお弁当の盛付けやお米の計量・洗米、食器の片付け、ホームの夕食準備、拭き掃除、喫茶では洗い物、お水の準備、ご飯・お汁をよそう作業をしています。ドーナツを揚げる作業もやっています。



Q、得意な作業はなんですか？どんなところが好きですか？

A、お米の洗米が得意です。丁寧にお米を洗っています。おいしいご飯が炊けるので頑張っています。

Q、休日はどんな過ごし方をしていますか？

A、家では毎日朝ごはんの片付け、洗い物をしています。それが終わるとテレビをみたり、ゲームをしたり、You Tubeをみます。あとは体力作りのために毎日腹筋20回と振動マシンに乗っています。

Q、これからやってみたいことはありますか？

A、喫茶のホール作業をやりたいです。注文を聞いたり、食事の提供などをしてお客さんと交流してみたいです。



職員のコメント

毎日元気なあいさつと一緒に面白いエピソードを話してくれ笑顔にしてくれます。どんな作業もいつも丁寧で正確に取り組んでいる姿が見られ、最近では新しい作業も「やってみます！」といろんなことに挑戦していて頼もしいです。これからもいろんなことに挑戦していき、たくさんの方の経験をしていきましょう。

けやき可見 きたがわ





～次代を担う職員との対談～



みずの（平成25年入職）

Q この仕事を始めるきっかけは何でしたか？

みずの：もともとカウンセラーに興味がありました。それで心理系について学べる大学に行きました。そこから精神保健福祉士の資格を取り、福祉業界に進むことにしました。その後、縁あってこの法人の相談支援専門員となりました。

いの：私はけやきの調理班の厨房にパートで入りました。そこで働く中で利用者の皆さんと関わることが楽しくて、この仕事を続ける中で支援の正職になりました。利用者さんと話をする中で見せてもらう笑顔に癒されながら仕事を続けています。

Q これまで仕事をしていてうれしかったことや、やりがいを感じた瞬間はどんな時ですか？

みずの：この法人の相談支援専門員として働く中で、関わりを持たせていただいた方で、当時どこの事業所にも通わず自宅でこだわりの強い生活を送っていた方が、相談する中で法人内の事業所が少しずつ関わっていき、産休育休を挟んで戻った時には法人内の事業所に笑顔で通うことができていたことですね。一緒に暮

らす家族にとっても、ご本人にとってもよりよい生活になっていくことが、とてもうれしかったです。同時にそこにやりがいを感じました。

いの：やっぱり、利用者さんの笑顔を見ているのが一番うれしいのですが、その中でも意思疎通が難しかった方と通じ合ったなど思える瞬間がうれしいです。何が欲しかったのかとか、何がしたかったのかが、いろいろ試す中で合致した時や、日々の作業の中で上手に伝わった時がうれしいです。

Q 仕事をする上で大切にしていることは？

みずの：雰囲気大切にしています。相談されることが多い仕事なので、こちらが与える印象に気を遣い、話しやすい雰囲気を出すことを心掛けています。服装だけでなく、声のトーンやスピードなども考えるようにしています。

いの：私も同じことを考えていました。利用者さんから声を掛けやすいスタンスというか、雰囲気を作っていけたら会話の第一歩になると考えています。



いの（平成19年入職）

Q 仕事をしてきて苦勞したことは何ですか？

みずの：苦勞ですか～、そうですね～相談という立場上、利用者の方だけでなく事業所のサビ管さんなどとも話をします。その際に思いの強い熱い方との関係を作っていくことに苦勞します。温度感のズレが無いように心がけながらも利用者本人の意向も考えて話をしていく時が大変です。

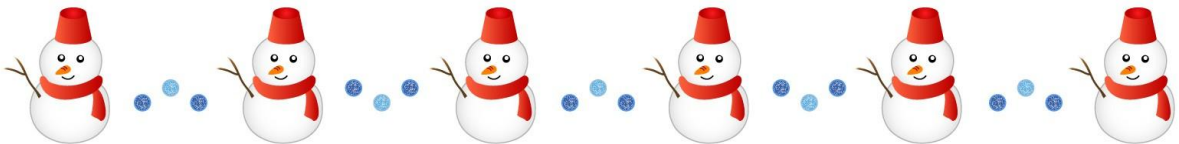
いの：B型事業所なので、特に直販班は、一度に大量の注文が重なった時に、それを捌いていくのに苦勞します。利用者の皆さんは頑張ってくれるのですが、オーバーワークにならないように気を付けています。

Q 今の福祉業界について思うことはありますか？

みずの：意思決定支援の難しさを痛感しています。ご本人の意思を尊重するのが大前提ですが、例えば利用者の皆さんが高齢化していく中で、一人になっても自宅で暮らしていきたいと考えていたとすると、それを社会資源で支えきれぬのかどうか疑問な場合もあります。今すぐに答えがあるわけではありませんが、個人で解決できる問題でもないのに、何かしら行政等とも協力していかなければならないと考えています。

いの：それぞれの利用者さんの親亡き後の生活について考えるとき、心配が絶えません。自立して生活できる方は少ないと思うので、どう生活していくのか心配です。

課長 かとう



寄付等頂いた皆様の紹介

ご寄付をいただいた方

(株)セクテック
佐々木陶器株式会社
谷 敏
けやき保護者会

(有)丸元コンフォート
水野・森本法律事務所
(株)吉川組

ボランティアをして頂いた方
平和中学校の生徒の皆さん





福祉マメ知識

普段職員が利用者の皆さんと関わることを難しく言いますと「対人援助」という言葉になります。アメリカの社会福祉学者フェリックス・ポール・バイスティック博士は、対人援助技術には7つの原則があるとしています。今回はそのバイスティックの7原則を紹介したいと思います。

- ① 個別化の原則
- ② 意図的な感情表現の原則
- ③ 統制された情緒的関与の原則
- ④ 受容の原則
- ⑤ 非審判的態度の原則
- ⑥ 自己決定の原則
- ⑦ 秘密保持の原則

この7つになります。わかりにくいのでまとめますと、『相手を一人の人間として尊重し、感情を受け止めつつ冷静に対応し、本人の意思を尊重して秘密を守る』といった内容になります。

法人職員は、こういった内容の研修を受けながら、日々利用者の皆さんへの支援を行っています。



編集後記

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。今年はずいぶん暖冬かと思っておりましたが、気温差の激しい冬で寒い日が続くこともあるようです。皆さん、体調を崩さないように気を付けていただきたいです。

さて、障害福祉分野の今年は何と申しますと、令和9年度の報酬改定に向けて話し合いがされてきた様々なることが形になっていく1年になります。どのような改定が行われるか、まだはっきりとしている訳ではありませんが、早めに情報収集を行い、利用者にとってより良い支援を継続し、持続可能な法人運営ができるようにして行きたいと思っております。

課長 かとう

社会福祉法人みらい けやきだより第50号

発行日 2026年1月
発行者 社会福祉法人みらい事務局
〒507-0827岐阜県多治見市平和町6-364
TEL 0572(22)1011



法人ホームページはこちらから